

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、(一社)教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり配布しております。

特集

詩と出会い、世界に出会う

巻頭
エッセイ

言葉から始まる
水族館計画

中村元

書写

随筆文学に見る
書のたしなみ

ブック
ガイド

詩・短歌・俳句の「今」を知る

二〇一九年度用
教科書訂正箇所

国語教育相談室

中学校

no.

89

光村図書

言葉の順序

順序は大事だ。ミルクティーを淹れる場合でも、ミルクを先に入れておく派と、後からミルク派がある。焼酎のお湯割りでも、お湯先派と、後からお湯派がある。まあ、最後は同じ物なのかもしれないのだが。

言語表現においても「順序」は大事。言葉の順序で主張は大きく変わってくる。以前、こんなアンケート調査をしたことがある。「親しい友人を無料のコンサート（学内のクラブ活動。観客予定数は100名程度）に誘った」という文脈で、「わからないけど行くと思う」と「行くと思うけどわからない」という二つの返答表現の「来てくれる期待度」を答えてもらった。どちらが来てくれそうでしょうか？

期待度の平均値は、前者が67・6%、後者が44・7%。つまり、「わからないけど行くと思う」はそれなりに来てくれそうだが、「行くと思うけどわからない」

らない」の方は、来てくれるかどうか、かなり微妙という解釈なのであった。これから、文章表現では、後の方に来る内容が大事、と言える。同じことを言うのでも、言い方の順序は大事なのだ。

順序は、評価を書く場合にも生かせる。同じ情報要素でも書く順序によって伝わる意味は違う。「とても頑張っていました。しかし、〇〇は課題です」という書き方と、「〇〇は課題です。しかし、とても頑張っていました」という書き方では、読み手としてのうれしさは大きく違うのではないだろうか。要するに「課題あり」ということになるのか、要するに「頑張っていた」という認定なのか、という違いは大きい。おそるべし！「順序」。

性質の違いにはなるのだが、語の形の上での順序もおもしろい。「コロッケカレー」と「カレーコロッケ」の違い

いはどうだろう。日本語では、後ろに位置する言葉が重要で、前者はカレー、後者はコロッケだ。だから、「カレーコロッケ入りコロッケカレー」はあるけれど、「コロッケカレー入りカレーコロッケ」はちょっと想像できない。順序に応じて、私たちの頭の中はフル回転でイメージを作っていく。「順序」、おそるべし！

そうそう、「合格ぎりぎり」と「ぎりぎり合格」も大きく結果が違う。前者は要するに「ぎりぎり」であって、合格とは限らない。「合格ぎりぎりなのに落ちた」という悲しい結末とも読める。それに対して「ぎりぎり合格」は、ともかくも「ごつかーく！」である。

もっとも、「あなたにだけ」「あなただけに」みたいに、違いが微妙でわかりにくいものもある。とにかく、言葉において、順序は大事。ん？ 大事なのは順序……？

早稲田大学教授
森山卓郎

CONTENTS

探検！言葉の森 38 言葉の順序 ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 言葉から始まる水族館計画 ————— 中村 元

特集 04 詩と出会い、世界に出会う

インタビュー 谷川俊太郎と詩と言葉と ————— 谷川俊太郎
聞き手：宗我部義則

宗我部先生の 詩の授業 Q & A ————— 宗我部義則

実践1 卒業文集の巻頭にふさわしい詩を選ぼう ————— 西塔麻美子

実践2 こころのアンソロジー ————— 細川李花

筆跡で読む 古典作品 最終回 12 随筆文学に見る書のたしなみ ————— 島谷弘幸

授業に役立つ ブックガイド 5 14 詩・短歌・俳句の「今」を知る ————— 高橋 伸

16 2019年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

言葉から始まる

水族館計画

水族館プロデューサー

中村 元

『天空のオアシス』『生きている水塊^{すいかい}』『北の大地の水族館』『ニッポンの水族館』『超水族館／海より広い海がある』
これらは今まで私が関わった五つの水族館で、リニューアルや新設オープン時のポスターおよびCMに使ったキャッチコピーだ。ただし、完成した水族館を見てコピーライターがつくったのではなく、いずれも展示計画を始める前の基本構想時に、水族館プロデューサーとして私が考えたものだ。水族館のリニューアルや新設にあたり、どのような理念で計画し実現するかを関係者に宣言するのが私の常なのだが、それを最も短くまとめたスローガンとしての言葉が、冒頭のコピーだ。

展示理念を正しく実現できたとき、その水族館を最も的確な言葉で表しているのは、スローガンということになる。だから、宣伝のキャッチコピーも同じ言葉になるのが当然。……いや、そうだろうか？ そんな都合のいい話があるわけではない。

実を言えば私は、最初から、オープン

心となり、最終的に大衆に伝えるためのキャッチコピーにもなるのだろうと自負している。

言葉とは、前述したように「最も普遍的で扱いやすい道具」であるがため、ふだんはどんざいに扱われることが多い。しかし、真剣に向き合って扱えば、言葉は力強い『象徴』となり、素早く拡散する『印象』となり、時にはその両方の力を持つ。

いったい水族館とは、生物を展示するところであり、展示とは「見せて伝える」ことだ。辞書によれば、展示とは「見せること」としか書かれていないが、「伝える」という目的がなければ見せる意味もない。だから水族館が、見せて「伝える」施設であることを私はとても大切にしているし、見てもえない展示、見ても何も伝わらない展示は、あつてはならないという信念を持っている。なぜなら、生物たちは展示されるという目的のためだけに、捕らえられ閉じ込められているのだから。見せて伝える目的が果たせないのなら、彼らを解放してあげる

水族館プロデューサー

中村 元

時のキャッチコピーとして使うことを想定して、展示理念スローガンをつくっている。どのような言葉で表現された水族館ならば、多くの人たちから興味を持たれ、多くの人たちの来館を促すことができるだろうか？との命題の下、最も有効そうな言葉をひねり出す。その言葉を中心に展示理念を展開し、基本計画をつくり、具体的な展示内容や設計にまで繋げていく。つまり、私の水族館計画は常に「はじめに言葉ありき」なのだ。

私は水族館プロデューサーを名乗りながらも、魚好きでもなければ、生物学や海洋学を修めてきたわけでもない。学芸

べきなのだ。

私が「はじめに言葉ありき」にこだわるのは、その考えを実践するためだ。人々に何かを確実に伝えられる水族館を開発するために、開発スタッフの拠り所となる理念の象徴として、言葉を提示する。また、そうやって完成した水族館の魅力ができる限り多くの人々に届けるために、印象の強い言葉を使うのだ。

実のところ、私が言葉について真剣に向き合うのは、ほとんどこのときだけだ。ふだんの私の言動は、いかにもいい加減

なかむら ばしめ
中村 元

水族館プロデューサー。1956年三重県生まれ。鳥羽水族館副館長を経て水族館プロデューサーとなり、「新江ノ島水族館」「サンシャイン水族館」「北の大地の水族館」のリニューアル、広島「マリホ水族館」新設などを手がけ、いずれも奇跡的な集客増に成功した。水族館文化発展のために、トークライブ「超水族館ナイト」を開催して10年目。近著には『水族館哲学生活が変わる30館』（文春文庫）、『いただきますの水族館』（瀬戸内人）など。

員の資格を持つてゐるわけでもないし、エンタテインメント畑の出身でもない。さすがにそれらにまったく興味がないということもないが、せいぜいちょっと好奇心の強い大衆の一人ということろだ。にも関わらず、「唯一の水族館プロデューサー」として仕事を依頼していただける程度には成功実績を重ねている。

その秘密が「はじめに言葉ありき」のやり方だ。もちろん、言葉は神と共に……というような聖書とは関係ない。いわゆる「言霊^{ことたま}」的なアレでもない。ただ単に、言葉は何かを伝える道具として最も普遍的で扱いやすいものである、というだけのことだ。

だから私には、天からの啓示のごとくキャッチコピーが閃くようなことはない。水族館の立地や特徴、時には弱点を並べてはひっくり返し、その時代のお客さんの欲求を大衆性の側から深く探り、ああでもないこうでもない、こねくり回しているうちにようやく生み出しているのだ。そうやって生み出された言葉だから、水族館の開発理念の最も重要な核

で適当で、時には誤用もあったりしてまるでデタラメだ。ところが、ふだんはその方が真意が伝わりやすく、より深く意味が伝わったりするのでから面白い。

おそらく、ヒトが人らしくあるための基本的な言葉とは、このふだん使いのいい加減な言葉の方なのだろう。二人で、あるいは家族的な集団で、互いに伝え理解し合うのに最適な言葉、本来のヒト社会に必要だった言葉。その言葉が発せられるときには、その空間で共有するイメージや感情がある。発された言葉はその場にいる人々の記憶や心にだけとどまる。たとえ文字に残されても、そこには感情や時空間までもが現れ、人の手で回覧されたり書き写されたりすることで、伝える人の感情が上乗せされ、伝えられる度に変化がもたらされうる。その言葉とは、マス媒体で伝達され、言葉だけが単独で拡散されていく今の時代の社会的言葉とは性質のまったく違う、穏やかで大らかなイメージのやり取りのことに違いない。

詩と出会い、 世界に出会う

「詩の指導に自信がもてない」という声を耳にすることがあります。一年が始まるこの時期に、詩の魅力、詩が育む言葉の力を考えてみませんか。



インタビュー

谷川俊太郎と 詩と言葉と

聞き手

宗我部義則（お茶の水女子大学附属中学校教諭）

詩とは何か、どんな向き合い方ができるのか……。日本を代表する詩人の一人、谷川俊太郎さんの考える詩のすがたについて、谷川作品の魅力を味わいつくす授業実践を行ったばかりの宗我部義則先生が聞きました。

文章・濱野ちひろ 撮影・鈴木俊介

詩は、「個人のもの」

宗我部 先日、谷川さんの詩を教材にして、中学校二年生に授業を行ったばかりです。谷川さんには、作り手として「詩をこんなふうに読んでほしい」といった思いはありませんか。

谷川 それは全然ないんですよ。詩は「個人のもの」であることが多いから、一人一人の読みがあってほしい。自由に読んでほしいと思っています。

宗我部 谷川さんご自身は、お若い頃からたくさんさんの詩を読んでこられたのでしょうか。

谷川 そうでもないんです。でも、好きな詩をいろいろと読みましたね。

宗我部 例えばどのような詩でしょうか。



詩人は、

世界をどう見ているか

宗我部 教育学者の足立悦男先生（※1）が「認識の教育としての詩」ということをおっしゃっています。これは、詩人がどのようにこの世界を見ているのかに触れ、そこから自分の認識を省みてみよう、ということなんです。



谷川さんの詩を生徒に読ませてみたら、ある生徒は「生きていく」という詩に最も感動したそうです。「毎日の小さなうれしいこと、悲しいことの積み重ねで自分の人生が作り上げられていくと思うと、少し不思議な気がします。私は新しい視点をもらえるような詩が好きなんだと感じました」というのが彼女の感想です。

谷川 すてきな感想ですね。

宗我部 詩を読むことを通して、自分のものの見方や、自分がどんな人間であるかを知る。詩に触れていくことには、そういった経験としての意味もあると、私自身も改めて感じました。教科書に掲載されている「春に」（三年）も、そうした意味で生徒に人気のある作品です。

谷川 この詩は三十代の初めの頃に書いた

※1 島根大学名誉教授。著書『新しい詩教育の理論』（明治図書）の中で、詩教材に内在する認識の力に焦点を当てた「見方の詩教育」を提唱。

日本語は、抑揚が大事な言語。 僕は、日本語の中にある音楽を大切にしたい。

もので、「人間の感情は、一つである場合は少ない」という実感から生まれたものです。悲しいといつても、悲しみ一色ということはありません。「悲しい」の中にも「うれしい」が混ざっていたりするでしょう。

宗我部 そういう視点が生徒たちにはとても新鮮に感じられるようです。「こういう気持ちは自分の中にもある」と共感もしていました。

谷川 この詩が教科書に載ったとき、子どもたちから質問をもらったんですよ。「悲しいのにうれしいって、どういうこと？」と。感情の中にも多彩な面があるはずだと刺激ができただけでも、きつと意味があったのだと思います。

声に出したときに きれいな詩を

宗我部 生徒から、谷川さんへの質問を預かっていきます。「詩を作るときに心がけていらつしやることは何ですか」。

谷川 声に出したときにきれいな詩を作る

でした。

谷川 なるほど。そのような方法もあるのですね。それにしても、詩の授業は難しいでしょう。

宗我部 試行錯誤しています。詩の時間に連句(※2)を取り入れたりもします。

谷川 それは新鮮ですね。僕は詩の創作の授業では、俳句から始めるほうがいいという意見なんです。日本語の伝統的な七五調は基本で、やっぱり大事にしたほうがいい。そこから日本語の音楽を作っていくということは可能だと思います。

宗我部 連句の教材化に長年取り組んでいるので勇気づけられます。五七五という型が生徒たちの足かせになるかとも思ったのですが、むしろ逆で、声に出して発表するときに達成感が得られるようなんです。

谷川 そうでしょう。定型があると、さまになりますからね。

「おいしい日本語」を 味わって

宗我部 谷川さんが感じていらつしやる詩のおもしろさとはどんなものですか。

谷川 「おいしい」かどうかです。僕は、詩は料理と同じだと思っているんですよ。

ことですね。

宗我部 谷川さんの詩を読むと、生徒たちから「声で表したい」という意見が出てきます。それで「朝のリレー」を六〜七人で群読してみたことがあります。その中で、「声でリレーしよう」と、生徒からアイデアが出されたりします。そうやって読み方を工夫すること自体が楽しく、詩を読み込むことにつながっています。

谷川 本当にそうですね。そういう演出があると、群読も一種の演劇になりますからいいですね。ただ、どんな詩でも群読や斉読に合うわけではないので、先生にはそこを見分けてほしいとは思っています。声を合わせて読もうとすると、どうしても一定のリズムを刻むようになってしまう。それでは一行一行の細かいニュアンスは出ません。

僕の詩でいうと『ことばあそびうた』の詩は斉読に向いていると思います。声に出すことでわかってくる詩と、そうではない詩がありますね。

宗我部 声に出したときの詩の美しさを左

「おいしい日本語」かどうかが最大の問題。例えば、機械などの取り扱い説明書は「おもしろくない日本語」です。詩はちょうどその対極にあるものです。

宗我部 日本語の「おいしさ」ですか。

谷川 つまりね、重要なのは言葉の意味だけではないんです。僕は、詩を音楽とよく比較するんです。連なる音符には意味があるわけではないでしょう。ところが皆、音楽に感動する。詩はわりと音楽に近いものなんですよね。もちろん、言葉でできていますから音符と同じようにはいかなしいし、意味をもつのですが。しかし、読むときには詩の意味を知ろうとするのと同時に、意味ではない部分こそ味わってほしいです。

宗我部 生徒からどうしても聞いてほしいと言われた質問を最後にさせてください。「人の心に刺さる詩や言葉はどうやって生まれるんですか」というものです。

谷川 それを目的にして書いているわけではないのですが、一つ言えることは、私に限らず詩人なら皆、その人の全生涯に関わる形で詩を書いているだろうということです。どういう赤ん坊だったか。どういう親だったか。どう育てられたか。トラウマがあるかどうか。そういうこと全部がその人の感受性を形成していく。生まれたときか



右するのは、言葉のリズムでしょうか。

谷川 リズムというより、日本語の「調べ」です。日本語は、抑揚が大事な言語ですから。僕が大切にしているのは、言葉の音楽的な要素なんです。日本語の中に内蔵されている音楽ともいえるもの。とはいえず、これは感覚の問題だから教えることも難しい。日本語の調べの感覚をもっている子も、もっていない子もいるでしょう。

宗我部 今回の授業では谷川さんの詩を生徒たちに自由に読ませた後、なかでも気に入った詩を書き写して、感想を書かせました。さらに、その詩に対して応答する詩を自分なりに書くという試みを行いました。一人の詩人の詩をこれほどたくさん読んだのは初めてだという生徒も多かったのですが、じっくりと読み込むことによって、まさに谷川さんの詩の調べを体感したようです。最後に生徒たちが書いた詩には、谷川さんから受け取った調べが現れているよう

ら、その詩を書くときまでの全ての瞬間が、一つの詩にも影響しているんですよ。

宗我部 ありがとうございます。生徒たちに伝えます。

谷川 俊太郎

1931年、東京都生まれ。詩人。1952年、第一詩集『二十億光年の孤独』を刊行。詩作の他、絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表し、著書多数。近年では、詩を釣るiPhoneアプリ『谷川』など、詩の可能性を広げる新たな試みにも挑戦している。近著に、『バウムクーヘン』（ナナロク社）。



宗我部 義則

1962年、埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師。国立教育政策研究所「教育課程実施状況調査問題（中学校国語）」作成および分析委員。平成20年告示『中学校学習指導要領解説国語編』作成協力者。光村図書中学校「国語」教科書編集委員を務める。

※2 五・七・五の長句と七・七の短句を、一定の規則に従って交互に付け連ねる様式の詩文芸。

詩の授業

Q & A



教材としての特長、授業で目ざしたいことなど、詩の指導にまつわる悩みに、宗我部義則先生がお答えします。

Q1 詩には、教材としてどのような特長があるのでしょうか。

A1 語感を磨き、認識のしかた・ものの捉え方を広げることに適しています。

短くて読みやすい。それでいて、豊かなイメージが浮かんでくる。これが、教材としての詩のよさだと私は考えます。

詩は、選び抜かれた豊かな言葉によって構成されています。言葉が少ない分、意味を捉えようとすると難しい。しかし、イメージを膨らませながら触れるうちに、いつしか言葉が体の中に入っていくように語感を磨くことができるのです。

さらに、詩は小説に比べて、作者が心を動かされた「瞬間」がよりストレートに伝わってくるから、それを追体験しやすい。そのため、自らの認識のしかた・ものの捉

え方を広げることに大いに資する教材になりうるものだと思います。

Q2 詩の授業で目ざすのは、どんなことでしょうか。

A2 目ざしたいのは、言葉の豊かさを知り、よりよい表現を追究する「言葉の使い手」を育てることです。

中学校の国語としては、まず技法を教えねばと考えがちです。ただ、私は、「〇〇法」という知識より、その技法によって生まれる効果について考えることを大事にしています。

「こういう表現技法だ」と教えることから入ると、「詩とは分析・解釈するもの」という印象を生徒に抱かせてしまいます。重要なのは、「何を感じるか」と「なぜそ

う感じるか」という自らの感覚をもとに表現の効果を捉えたり、鑑賞したりすること。

ですから、生徒には、まずは先入観なしに詩と出会わせたいと考えます。

例えば、「竹」(一年／萩原朔太郎。一行目から読み進めるうちに、「この独特の響きやリズムはどこから来るんだろう」と、心が感じます。その理由を考える中で、連用中止や反復の効果を感覚的に理解していくことができる。こうした経験を通して、言葉のおもしろさや豊かさを知ることができる。とよいのではないのでしょうか。

解釈のしかたを覚えるのではなく、言葉が担うイメージをさまざまに捉え、味わう。そうすることで、「伝達」のためだけではない、言葉の「詩的」な機能に気づき、ひいては、よりよい表現を追究しようとする「言葉の使い手」を育てたい。私は、そんな思いをもっています。

Q3 授業では、どういうことに気をつければよいでしょうか。

A3 一人一人の生徒の感性に働きかけるような授業を心がけたいものです。

中学生が、日常生活で詩に触れる機会は多くありません。ですから、国語の授業が、その入り口になればと思います。心を揺さぶられ、一生忘れられなくなる、そんな詩に一つでも出会えるように、授業では、解釈よりも鑑賞を大切にして、生徒の感性に働きかけるようにしたいものです。

私がよく行うのは、「この詩は、ひと言でいうと□な詩だ」という型を与え、□に入る言葉とそれに続く理由や根拠の文章を考えることから始める、鑑賞文の実践です。□の部分、その詩の第一印象を表します。苦手意識のある子でも一つは思いつきますし、いくつか書き出した中から選ばせてもいい。詩の言葉を引用しながら説明させれば、自然とその詩を味わい、鑑賞することへと導けます。

一人では気づかなくても、みんなで読むと見えてくるものもあります。私は、群読の際は、どの部分をどう読むかという台本

を考えると、生徒に任せるようにしています。群読の工夫を通して、みんなの「読み」をつくっていくのです。

「朝のリレー」(谷川俊太郎)を扱ったときには、「ここは、バトンを渡すようにテンポよく読みたい」「場所の違いを表すために、立つ場所を変えて読もう」など、生徒からは多くのアイデアが出されました。それらを実際に試したり、話し合ったりしながら、各グループの群読に仕上げていきます。詩には、一人で向き合い、読み浸るという味わい方がありますが、他者の感じ方を知ること、自分の鑑賞が広がり、確かなものになることも大いにあるのだと思います。

最近、行ったのは、谷川俊太郎さんの作品をひたすら読み味わう授業です。一人の詩人の世界に浸り、その認識のしかたと一対一で向き合う。それは、作者が「何をどう見ているのか」に目を向け、感じ取ることを意味します。いちばん気に入った詩を理由とともに紹介し合ったり、それに応える形で詩を書いたりすることを通して、生徒は、自分や友達の認識のしかたともまた、向き合うことになりました。

Q4 教材研究では、どんなことを意識するとよいでしょうか。

A4 言語活動を踏まえたうえで、詩全体を捉えるために着目すべき言葉を見つけることが大切です。

「この言葉を巡って考えることで、詩全体を捉えることができる」という、鍵となるような言葉を見つけること。教材研究は、これに尽きると思います。そのためには、教師自身がその詩を本気で味わっていないと位置づける言語活動に沿ったものであることも重要です。

例えば、朗読を行うとしたら、「どの言葉に着目して表現させれば、その詩の世界を味わうことができるのか」と考えるのです。「春に」(三年／谷川俊太郎)であれば、「この気もちはなんだろう」の反復をどう読むか」と問いかけることで、生徒はこの詩全体をつかむことができます。教材研究をするときには、そうした問いかけを見いだすことを大切にしています。

卒業文集の巻頭にふさわしい詩を選ぶ

作品の魅力を伝える

使用教材：「春に」「わたしを束ねないで」（三年）

「雑草」「第一ページ」（『光村ライブラリー 中学校編 第五巻』）

東京都千代田区立麹町中学校非常勤講師

西塔麻美子

1 指導計画（全二時間）

■目標

「目的に応じた詩を選び、その魅力を伝える」ことを通し、次の二つの力を養うことをねらった。

○詩の世界を豊かに想像し、味わう。

○自分の考えを言語化して明確にする。

■展開

第一時

・四編の詩を読み、作品中の抽象的な表現や感情を表す言葉に着目して、詩の世界を想像する。その際、それぞれの詩から受けた印象なども併せてまとめておく。

・卒業文集の編集委員になったと仮定し、どのような文集にしたいかを考える。

【例】「中学校生活の思い出となるような文集」「未来への希望が感じられる文集」「卒業前の今の気持ちが表れている文集」など

第二時

・前時の内容を踏まえて、四編の中から卒業文集の巻頭を飾るのにふさわしい詩を選ぶ。その理由や作品の魅力をワークシート等にまとめる。

・グループで意見交流を行い、その後、クラス全体で意見を共有する。

・最終的に自分はこの詩を掲載したいと考えたのかをまとめ、学習を振り返る。

2 指導の工夫・学習の実際

生徒が作品を主体的に読むことができるように、次の三点を工夫した。

- ①複数の詩を比べ読みさせる。
 - ②「自分が文集編集委員になったとしたら」という状況を設定して学習活動を行う。
 - ③意見交流後に個人で再考させることで、自分の考えを再構築できるよう促す。
- ①・②は、生徒が詩を読み深めるうえで

こころのアンソロジー

「こんなときに読みたい詩集」を作る

使用教材：「わたしを束ねないで」（三年）

1 指導計画（全七時間）

■目標

○複数の詩を読み、そこに表れた作者のものの見方・考え方を比べる。

○意図をもって、詩集を編集する。

○目的や意図に応じた表現を用いて、前書きや後書きを書く。

■展開

第一次（二時間）

詩「わたしを束ねないで」を「どんなとき」に読みたいか、理由とともに発表し合う。

第二次（三時間）

「こんなときに読みたい詩集」を編集し、前書きと後書きを付ける。

第三次（二時間）

作った詩集を読み合う。

2 指導の工夫・学習の実際

第一次で発表し合う「どんなとき」は、

筑波大学附属中学校教諭 細川李花

「春の日の夜明けを見るとき」「眠る前の静かなひととき」という特定の時間を指すものや、「新しいことに挑戦するとき」のように人生における段階を示すものなど、自由なレベルの「とき」でよいことを全体で確認した。理由を必ず発表することで、詩の主題をどう捉えたかが明らかになり、多様な読みを共有することができた。

第二次ではまず、教師が作った詩集をモデルとして提示し、活動のイメージをもたせる。次に、第一次の発表をもとに、これまでに自分が詩を必要としたときを想起し、詩集の軸となる「とき」を考えさせた。「テストの結果が悪かったとき」「引退試合で負けたとき」「元日の朝」「恋に敗れたとき」など、さまざまな場面が挙げられた。

詩集に採録する詩は、個々に収集させる。教師は司書教諭と協力し、学校図書館と地域図書館から借りた詩集を用意した。生徒はこれらや、自宅にあるものをもとにそれ

有効な手立てであり、③は、生徒が十分に思考できる時間を確保することが、深い学びにつながる考えた。

主教材「わたしを束ねないで」は、クラス全体で読みを深めた。「春に」は既習教材なので、内容を簡単に復習することにとどめた。「雑草」（北川冬彦・「第一ページ」）（丸山薫）は生徒に読みを任せ、鑑賞した内容をワークシートに記入させた。それらのワークシートやノートを、読み比べや意見交流での発言に生かす生徒も多かった。「巻頭ではなく、巻末に載せたほうがよいのではないか」という意見が出るなど、思考の深まりが見られる場面もあった。意見交流後には、どのような卒業文集にしたいかによって選ぶ作品が異なることに、クラスの大半の生徒が気づいていた。

3 考察

詩は読者の想像力を喚起させるが、その自由度の高さゆえに、生徒に鑑賞を委ねた授業に終始してしまうことが多い。目的に応じて、複数の詩の中から一つを選ぶという今回の課題は、生徒の目に新鮮に映ったようである。この活動を通し、生徒は詩を評価的に読むことができ、結果的に作品を読み深めることにつながった。

ぞれ三〜六編の詩を選択する。そしてそれを清書し、表紙と題を付け、三百字程度の前書きと後書きを書く。写真や絵を添えるなど、各自思い思いの詩集を完成させた。

第三次では、互いの詩集を読み合う。詩集の最終ページはコメントを書き合うスペースとし、感想や評価を書いた。

3 考察

詩の学習というと表現技法とその効果、主題等の分析的な読解に重点を置きがちだが、生徒は三年間の学びを通して、こうした読みの力がある程度身につけ、詩に表れるものの見方・考え方を、自分なりに捉えることができるようになっていく。卒業期の単元として、表現技法や主題にはあえて触れず、解釈を個々に委ね、もっと自由に詩を読み味わう授業を設定したいと考えた。

学校生活や進路選択で悩みやすいこの時期に、好きな歌詞や偉人の名言などから勇気をもらったり、慰められたりする生徒の姿を多く目にする。吟味された言葉の結晶である詩も、同様の力をもつだろう。詩は、生活の中でも、生徒を励まし、支える存在となる。生徒が今後の人生においてもさまざまな場面で豊かな詩と出会い、詩からの贈り物を受け取ることを期待したい。

随筆文学に見る 書のたしなみ

新しい学習指導要領では、日本の文字文化の豊かさを理解することが、これまで以上に求められています。最終回では、『枕草子』などの随筆文学を取り上げ、「書」としての美的要素という点から解説します。



九州国立博物館長
しま ひろ ぶき
島谷弘幸

1953年岡山県高梁市生まれ。東京教育大学卒。小松茂美博士に師事。東京国立博物館副館長を経て、2015年から九州国立博物館長。文部科学省教科用図書検定調査審議会委員(08～17年度)など歴任。

「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。」という書きだしで知られる清少納言の『枕草子』は、兼好法師の『徒然草』、そして鴨長明の『方丈記』とともに、日本を代表する随筆として知られる。この書きだしを読むたびに、「山ぎは」の解釈である山に接している空と、「山の端」の山と空が接して見える境、いわゆる山側の稜線の違いをしっかりと覚えさせられた学生時代の記憶がよみがえってくる。

春はなんといつても曙である。ようやく空が白々としていき、しだいに山際が明るくなつて、薄い紫色に染まった雲がたなびいているのが良い、という。続け

て、夏は夜、秋は夕暮れ、そして冬はつとめて（早朝）が良い、とそれぞれの季節の素晴らしさを、清少納言の感覚で伝えてくれる。これは、宮廷貴族の感覚を代表しているものと思われる。

さて、中国では、詩と書と画に優れることを意味する「詩書画三絶」は、文人にあつて理想の姿であつた。「琴棋書画」も、中国において高級官僚で文化人である士大夫の身につけるべきものとされた。そのいずれにも、書が必須のものとして加えられている。また、日本ならではの精神や考え方をもちて中国の学問を吸収、消化することを「和魂漢才」というが、書の世界でもこの考えは当てはまつている。「三跡」に代表される和様の書や漢

字の草書体から生まれた「仮名」も好例である。

ところで、平安時代から鎌倉時代中期ころまでの主として歌集を書写した筆跡を、今日では「古筆」とよんでいる。これらは身の回りにおいて鑑賞する調度用の豪華な手本のことで、儀式や行事などに際しての贈り物とされたものである。これは、男性であつても、女性であつても手習い、すなわち書道を大切な教養の一つとして考えていたことと密接に繋がりがあつて、書には言語としての役割のほかに美的な要素が重要であると考えていたのである。

その書に対する宮廷貴族の姿勢が多く、の文学作品に取り上げられている。たと

えば、この『枕草子』一五二段(図1)の「手よく書き、歌よくよみて、ものをりこ」にもまづ取り出でらるる、うらやまし(筆跡が巧みで、和歌が上手に詠めて、何かあるたびに最初に選ばれるのはうらやましい)など、『枕草子』には筆跡に関わる言及が多数散見する。宮廷貴族にとつては、漢学の素養、音楽、和歌などとともに、書が巧みであることが望ましい姿として考えられていた。つまり、文字に対する、美しく、早く、優美に、あ

るいは格調高くという意識は、男性から女性に対する評価、あるいは女性から男性に対する評価の一つとしても重要になつていった。

さて、文学であればなんでも手本(古筆)となつたかといえ、必ずしもそうではなく、時代とともに変遷していく。能書の家の一十一世紀の秘伝書に「能書は物語を書くべきではない」という一項があつたが、平安末期には能書による物語作品が執筆されている。では、随筆はど

うかというところ、これまた平安末期から鎌倉時代になつてようやく遺品が残る。また、自筆ではないが日記文学では、鎌倉時代の藤原定家による『土佐日記』の写本(図2)が現存する。この一部に著者の紀貫之の自筆本の臨書があり、鎌倉初期まで貫之の書が伝存していたことを確認することができる。

ところで、今日、外来語を表現するのに重宝している片仮名があるが、これは漢字の字画の一部分だけを活用したもので、役所や南都六宗の寺院の学僧によつて、漢文を訓読するための仮名(振り仮名・送り仮名)として考案されたのが始まりである。したがつて、当初は漢籍を読むための補助的な文字にすぎなかつた。その後、平安中期以降は漢籍を離れての使用もしだいに増加し、平安末期にはほぼ現在の形となつた。鎌倉時代になると、片仮名だけでなく『万丈記』を書いた本もようやく出現し、この頃に独立した仮名として位置づけられるようになったことにも注目しておきたい。



図1 『枕草子』一五二段
(部分・国立国会図書館ウェブサイトより)

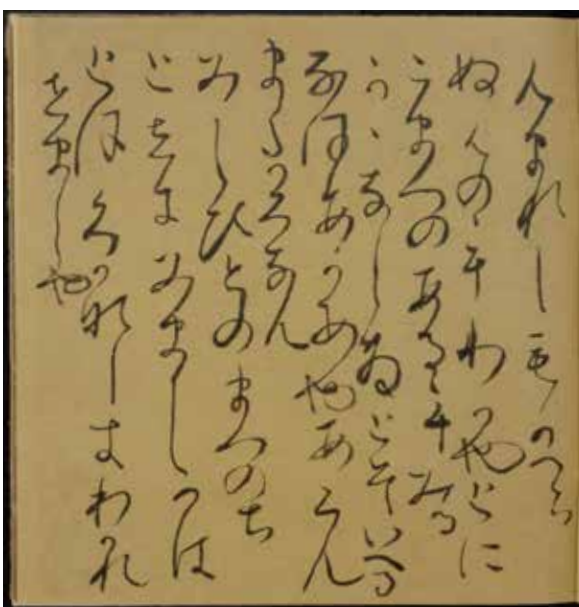


図2 『定家本土佐日記』藤原定家による紀貫之の自筆本の臨書
(国立国会図書館ウェブサイトより)

詩・短歌・俳句の「今」を知る

授業づくりに役立つ本、授業とからめて生徒に読ませたい本などを紹介するリレー連載。今回のご担当は、高橋伸先生（札幌市立向陵中学校教諭）です。



北海道札幌市立向陵中学校教諭
高橋 伸
1964年、北海道生まれ。北海道教育大学札幌校卒業。北海道教育大学附属札幌中学校を経て、札幌市の公立中学校教諭として勤務。

韻文の授業の導入として、お気に入りの小説の作者を生徒に尋ねてみる。宮下奈都、東野圭吾、瀬尾まいこ、有川浩など、瞬く間に学級の人数と同じくらいの名前が挙がる。では、詩や短歌や俳句はどうですか、と問うてみる。谷川俊太郎、宮沢賢治、工藤直子あたりでびたりと声が止まる。詩集を買ったことがある生徒はゼロに近い。小説の情報は身近にあふれているが、韻文の情報はなかなか入ってこない。

よく読んでいる小説については「創作してごらん」と言われる機会は滅多にないのに、生徒が短歌や俳句を「作ってみよう」と言われる機会は意外に多い。国語の授業でも作るし、行事が終わった後に作ることもある。そんな折に生徒がこんな俳句を作ったら、

教師はどんなふうに評価するだろう。

鯉のぼり泳いでいるよかわいいな

今回紹介する『世界一わかりやすい俳句の授業』では、生徒が作る俳句によく見られるこのような句を「類想類句」と評している。凡人的発想から生まれた、誰もが作りそうな俳句という意味である。

では、どんなふうに投げかけていけば、この句を良くしていけるのだろうか。詳しくは、「二物仕立て」（季語のことだけで俳句を作る）と「取り合わせ」（季語以外の要素も入れて作る）の違いを理解しただけで、生徒自身が俳句を楽しみながら作り変えていくように思う。

今を生きる私たち教師は、現代の小説や随筆を読み、論説や報道などの文章を読んでいる。当然ながら、そのことが国語の授業に役立っているはずだ。けれど、韻文、特に現代の韻文については、はなはだ心許ない知識と読書量で授業を行っているのではと、自戒の念を込めて考える。

授業者である私たちも、意識して韻文に触れる必要がある。そうすれば、今よりもっと、自信をもつて生徒たちに向けて授業ができるし、本を紹介することができるようになる。まずは私たちが、現代の韻文を読み、おもしろがったり首をかしげたりしながら、韻文に親しんでいこう。今回紹介するのは、そのときの一助になればと選んだものだ。



短歌の友人
穂村 弘 著
河出文庫／2011年

短歌をどう読み解くかを、穂村弘が教えてくれる。エッセイでは軽妙な語り口の著者が、古今の短歌を、時に自ら改作した短歌と比較しながら真面目に解説してくれる。授業の導入にクイズとして用いると楽しい。



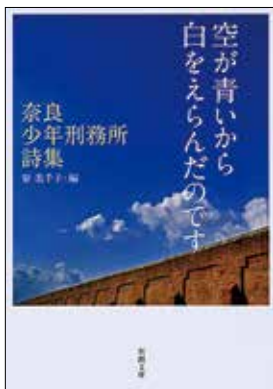
桜前線開架宣言
Born after 1970 現代短歌日本代表
山田 航 編
左右社／2015年

教科書に掲載されている短歌は、1962年生まれの後万智・穂村弘が一番の若手。本書は副題のとおり、1970年以降に生まれた現代歌人が紹介されている。俳句編の『天の川銀河発電所』も併せて読みたい。



夏井いつきの
世界一わかりやすい
俳句の授業
夏井いつき 著
PHP研究所／2018年

俳句を作るときに教えておきたいことが満載。本書に書かれたことが意識されるだけで、生徒の俳句は劇的に良い作品に仕上がるはず。中学校の国語教師だったという筆者の説明が、本当にわかりやすい。



空が青いから
白をえらんだのです
奈良少年刑務所詩集
寮 美千子 編
新潮文庫／2011年

副題にあるように、奈良少年刑務所で更生教育の一環として作られた詩の数々。思いがそのまま文字になったような作品に、心打たれる。詩の授業の初めに朗読するのもふさわしい。

授業にデジタル教科書を！



光村のデジタル教科書がさらにパワーアップ！
国語, 英語, 美術の授業を強力にサポートします。

光村 デジタル 教科書

指導者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」 2年ライセンス 各46,000円+税
1～3年 ダウンロード版 各23,000円+税

光村「英語デジタル教科書」 2年ライセンス 各48,000円+税
1～3年 ダウンロード版 各24,000円+税

光村「美術デジタル教材」 DVD版 50,000円+税
わくわく美術室 DVD版(1年契約版) 12,000円+税

学校フリーライセンス：校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

学習者用(中学校)

光村「国語デジタル教科書」 1ユーザー 各1,500円+税
1～3年 使用期間は2020年3月31日までです。

体験版はホームページよりダウンロードすることができます。
www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/



光村図書は、CoNETS(コネッツ)に
参画しています。

光村図書出版株式会社 www.mitsumura-tosho.co.jp
〒141-8675 東京都品川区上大崎 2-19-9
TEL: 03-3493-2111(代表) 03-3493-5741(デジタル教材お客様窓口)
FAX: 03-6721-6884 E-mail: digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

国語 2019年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

2019年度用教科書では、2018年度用教科書から以下の箇所を訂正いたします。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

なお、教科書の訂正に伴いまして、教科書紙面やその内容を含む各種指導書につきましても、訂正を必要とする箇所が生じます。合わせてご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

学年	ページ	行など	2018年度	2019年度
2年	185	注⑦	⑦放送場所は、山元町役場の一階ロビーに決めた。=二〇一一年七月の役場の引っ越しに伴って、「りんごラジオ」も役場内から、公民館の前のプレハブハウスに移動した。	⑦放送場所は、山元町役場の一階ロビーに決めた。=二〇一一年七月の役場の引っ越しに伴って、「りんごラジオ」も役場内から、公民館の前のプレハブハウスに移動した。 <u>なお、「りんごラジオ」は、震災から六年にわたって放送を続け、二〇一七年三月三十一日に閉局した。</u>
3年	156	上15	人の姿や心のありようが実に <u>細やかに</u> 表現されている。	人の姿や心のありようが実に <u>こまやかに</u> 表現されている。



この給食、 きっと忘れない。

いつもどおりの、
けれど誰かにとっては特別な給食——
6人の中学生たちの揺れる心が、
給食をきっかけに変わっていく。
やさしく胸に響くアンサンブルストーリー。

好評発売中

給食アンサンブル

如月かずさ 作 / 五十嵐大介 絵

定価：本体 950円+税
188mm×128mm / 並製 / 192p
ISBN978-4-8138-0078-1 C8093

光村図書出版株式会社
ご注文は、お近くの書店または弊社ウェブサイトで。
www.mitsumura-tosho.co.jp

好評発売中

きれい

に書くには

コツ

がある



●新学習指導要領の学年別配当に対応

- 常用漢字(2136字)すべて筆順付
- 新たに音訓索引を設け、漢字の検索が容易に
- 書写教科書と同じ書き文字で掲載
- 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
- 字形のポイント、許容についての図示
- 堅牢で汚れにくく、開きやすい塩ビ製の表紙

光村図書出版株式会社

●本文は、お近くの書店 または弊社ウェブサイト。
www.mitsumura-tosho.co.jp



新・
字形と筆順
改訂版

宮澤正明 編

四六判/352P

定価 1,800 円 + 税

ISBN978-4-8138-0044-6

中学校 国語教育相談室 通巻 No.188 2019年4月19日発行

発行人=小泉 茂 発行所=光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所=株式会社 加藤文明社 デザイン=mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。

詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書